

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2020年 第38週 (9/14-9/20) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	38週	37週	36週	35週
小児科	15	18	18	18
眼科	3	5	5	5
インフルエンザ*	22	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	9/14-9/20	9/7-9/13	8/31-9/6	8/24-8/30	9/7-9/13
			38週	37週	36週	35週	37週
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	0	0
	咽頭結膜熱		0	1	0	1	16
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		4	2	2	4	91
	感染性胃腸炎		22	28	28	21	208
	水痘		3	5	2	3	14
	手足口病		1	1	1	2	9
	伝染性紅斑		0	0	3	0	0
	突発性発しん		7	19	13	15	77
	ヘルパンギーナ		4	4	2	0	8
	流行性耳下腺炎		1	1	0	1	9
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0	0	0	0	0
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		2	4	0	0	14
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	1
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	1
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	2
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(70件)

※新型コロナウイルス感染症57件は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	画像検査	腸管出血性大腸菌感染症	女性	10歳代	病原体の分離・同定及びペロ毒素の確認
結核	男性	40歳代	病原体の分離・同定等		女性	20歳代	
結核	男性	50歳代	IGRA検査		女性	30歳代	
結核	男性	60歳代	IGRA検査等	ウイルス性肝炎	男性	20歳代	IgM Hbc抗体の検出
結核	女性	90歳代	病原体等の検出等	クロイツフェルト・ヤコブ病	女性	60歳代	脳液検査等
レジオネラ症	男性	60歳代	病原体抗原の検出	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出
急性脳炎	女性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状	新型コロナウイルス感染症	男女	10歳代~90歳代	病原体遺伝子の検出等

・第38週は、結核5件(111)、腸管出血性大腸菌感染症3件(17)、レジオネラ症1件(10)、急性脳炎1件(9)、ウイルス性肝炎1件(2)、クロイツフェルト・ヤコブ病1件(2)、梅毒1件(13)、新型コロナウイルス感染症57件(520)の発生届があった。

※ ( )内は2020年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

## 定点当たり報告数 第38週のコメント

過去10年の同時期と比べると、全て平均未満又は報告無しとなっている。

### <トピック>

### <レジオネラ症>

第38週に1件の届出があり、2020年の累積発生届出数は10件となりました。

レジオネラ症は、もともと土壌や水環境に普通に存在するレジオネラ・ニューモフィラ (*Legionella pneumophila*) を代表とするレジオネラ属菌 (*Legionella spp.*) による細菌感染症で、レジオネラ属菌が繁殖している循環式浴槽水・空調の冷却塔などから発生するエアロゾルや塵埃を肺へ吸入することで感染します。人から人への感染はないとされています。病型は劇症型の肺炎と一過性のポンティアック熱があり、潜伏期間は肺炎が2～10日、ポンティアック熱が1～2日となっています。発生は1年中見られますが、主に夏期～秋期に多くっており、近年本症の届出は増加傾向にあります。

2020年第37週現在の全国の発生届累積数は1379件で、過去10年の同時期(509件～1379件)と比べると多くなっています。都道府県別では、東京都(94件)、愛知県(79件)、大阪府(74件)の順で多くなっています。千葉県(65件)は全国第7位となっています。

千葉市では2010年から2020年第38週まで合計96件の発生届がありました。過去10年の届出状況は、増加傾向にあり、2019年は過去10年で最多の15件となっています。第38週時点の累積届出数が2019年の同時期と同等であることから、2020年も同程度の発生数になることが予想されます(図1)。月別の届出でみると、5月～9月に発生が増加しています(図2)。病型は、肺炎型94.8%(91件)、ポンティアック型4.2%(4件)、無症状病原体保有者1.0%(1件)となっており、死亡例が1件あり、国外での感染が4件ありました。男女比は男性が88.5%(85件)、女性が11.5%(11件)で、年齢階級別では60歳代32.3%(31件)、70歳代27.1%(26件)、50歳代20.8%(20件)の順で多く、高齢の男性が多くなっています(図3)。年齢中央値は全体で67歳(男性67歳、女性78歳)となっています。症状別(重複あり)では、発熱(88.5%:85件)と肺炎(84.4%:81件)が8割以上を占め、呼吸困難37.5%(36件)、咳嗽[がいそう]34.4%(33件)の呼吸器系の症状のほか、意識障害20.8%(20件)の順で多く、下痢6.3%(6件)、腹痛2.1%(2件)といった消化器系の症状も報告されています(図4)。

予防するためには、レジオネラ属菌が増殖しやすい環境をなくすことが大切です。冷却塔や循環式浴槽(追い炊き機能付き風呂・24時間風呂など)の配管及び加湿器の内部に汚れやバイオフィーム(微生物が形成する生物膜。細菌等で形成される「ぬめり」など)が生じないように定期的に洗浄等を行うほか、特に超音波振動タイプの加湿器(※)を使用するときには、毎日水を入れ替えて容器を洗浄するなど、取扱説明書に従って維持管理することが重要です。

※ レジオネラ属菌は60℃5分間で殺菌されるので、水を加熱して蒸気を発生させるタイプの加湿器は感染源となる可能性は低いとされています。

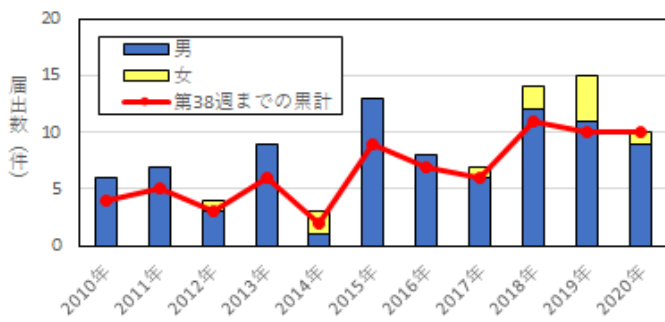


図1 年別・性別 2010年～2020年第38週 n=96

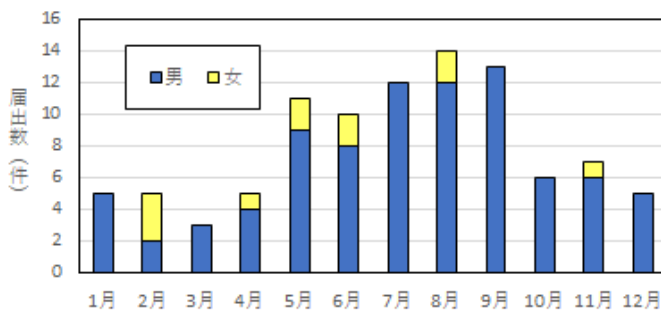


図2 月別・性別 2010年～2020年第38週 n=96

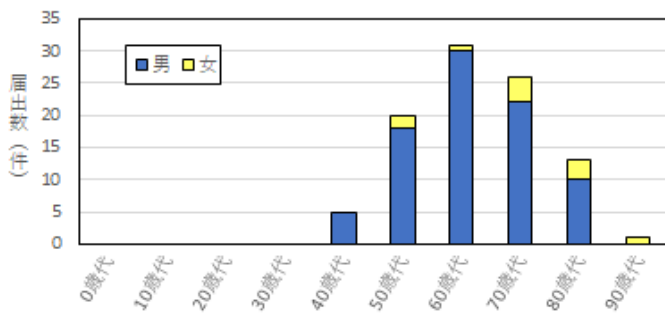


図3 年齢階級別・性別 2010年-2020年第38週 n=96

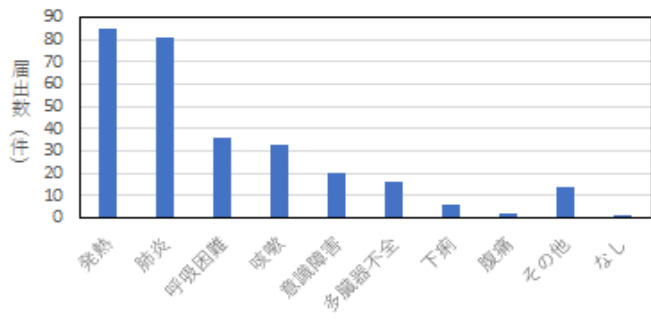


図4 症状別(重複あり) 2010年-2020年第38週 n=96